



琉球病院 Monthly



独立行政法人
国立病院機構 琉球病院
National Hospital Organization RYUKYU Hospital

Vol.81
2019. October

発行者 琉球病院事務部長
秋好 輝雪

基本理念 この病院で最も大切なひとは医療を受ける人である



「ふれあい看護体験」を開催して

琉球病院看護部
看護部長 中井 邦彦

去る令和元年8月2日、看護部主催による「ふれあい看護体験」を開催いたしました。

ふれあい看護体験は、「看護の心」の普及啓発を通して、県民一人ひとりが看護についての関心と理解を深めると共に、看護職員などの就職を促進し、活気ある長寿社会造りに寄与する目的で設定されました。開催時期は、看護教育者であり看護師でもあったフローレンス・ナイチンゲールの生誕にあわせ5月に行われることが多いのですが、琉球病院では「看護の心をみんなのところに」をメインテーマに、多くの学生に参加して欲しいと考え毎年夏休みの時期に開催しています。

今回のふれあい看護体験には県内の3つの高校から11名の参加がありました。看護体験の実践では、入院患者さんとのコミュニケーション、血圧測定やシーツ交換、病院内見学などを行いました。学生ははじめての体験に緊張した表情でしたが徐々に笑顔が見られ、患者さんとも楽しそうに会話していました。また病院内に入る機会も少ないため施設の構造にも興味を持って見学していたようでした。

ふれあい看護体験の最後には意見交換の時間を設け、学生の疑問、質問に対して看護師自らの体験をまじえて回答を行いました。学生の感想は、看護師になるための進路相談や体験談を聞くことができ、「進路について具体的な話が聞けて良かった」「看護師を目指したい」「看護師になることへの不安が消えた」という感想が多く聞かれました。また入院患者さんとのふれあいを通して「怖いイメージがあったが、イメージが変わった」などの意見があり、今回のふれあい看護体験は看護職を目指したいとしている学生にとって、これまで漠然とした将来への不安を軽くする機会となり、また職業選択に大きな影響を与える貴重な時間になったのではないかと感じました。

今回、ふれあい看護体験の担当者として、看護師を目指していると語る高校生の話を聞いて、自分自身が看護師を目指そうと思ったときの事を思い出し、懐かしい気持ちになりました。これからも看護師を目指したいという学生がふれあい看護体験を通して、さらに看護師という職業に興味を湧くような体験を計画していきたいと思えます。

最後となりましたが、ご協力いただきました各部署の皆さま、ありがとうございました。



● 地域医療連携室だより

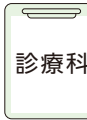
琉球病院では、受診相談や地域、行政、他医療機関からの窓口として地域医療連携室を設置しております。一般精神をはじめ、アルコール依存症（アディクション全般）、治療抵抗性統合失調症治療薬で効果のあるクロザピンによる治療、認知症、児童思春期外来といった様々な疾患をお受けできる診療体制を整えております。また、中北部圏域を中心とした地域の皆様によりよい質の医療を提供し、適切な対応ができるよう充実した取り組みを行い、地域のニーズに応えられるよう日々努力してまいります。初診をはじめ、受診については予約制となっております。

ご相談はお気軽に地域医療連携室までお問い合わせください。

院長

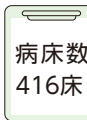
福治康秀（ふくじ やすひで）
1964年生まれ、那覇市出身、首里高校卒。

1993年琉球大学医学部卒、琉球大学医学部精神神経科入局。95年那覇市立病院精神科、96年琉球大学精神神経科、2009年琉球病院精神科部長、2010年副院長を経て2014年琉球病院長に就任。日本病院・地域精神医学会理事。



診療科

- ・一般精神科
- ・こども心療科
- ・物忘れ外来
- ・アルコール依存症等外来



病床数
416床

- ・精神科病棟 151床
- ・認知症 56床
- ・アルコール 54床
- ・児童思春期 ユニット 4床
- ・重症心身障がい 90床
- ・医療観察法 37床



● アクセス

路線バス / 那覇BS(下り)または名護BS(上り)より沖縄バス「77番名護東線」浜田バス停下車徒歩3分
自動車 / 那覇市から40分
沖縄自動車道金武インターから名護向け5分

NHO PRESS～国立病院機構通信～について

琉球病院は、国立病院機構 (NHO: National Hospital Organization) という143の病院からなる国内最大級の病院ネットワークの病院です。

国立病院機構 (NHO) という病院ネットワークが、どのようなグループでどのような活動をしているのかを紹介する「NHO PRESS～国立病院機構通信～」を発行しています。 外来ロビーに設置していますので、ぜひご覧になってください。

なお、ホームページに最新号と過去のものを掲載していますので、そちらもぜひご覧になってください。「NHO PRESS」で検索してください。

お問い合わせ時間
8:30～17:15 (土・日・祝日以外)
TEL: 098-968-2133 (代)
内線: 231・234
地域医療連携室(直通)
TEL: 098-968-3550
FAX: 098-968-7370

治療抵抗性精神疾患への医療



クロザピンの治療状況

平成22年から治療抵抗性統合失調症の患者様に対してクロザピン(CLZ)治療を開始し、全症例は延べ283例になりました。令和元年8月のCLZ導入は1例で、他の病院からのご紹介をいただきました入院中の患者さんでした。CLZ治療前には暴力行為や多飲水などの問題行動のために隔離が必要な患者さんも多くいらっしゃいましたが、CLZ継続例では問題行動も少なくなり、隔離は解除できています。週に3回のCLZ専門外来も行っていきますので、患者さんのご紹介をお願いいたします。

m-ECT（修正型電気けいれん療法）の治療状況

当院では、m-ECT（修正型電気けいれん療法）による治療を行っております。令和元年8月の治療実績はありませんでした。

こども心療科

こども心療科では、県から委託を受けている「子どもの心の診療ネットワーク事業」の一環で、定期的に研修会を開催しています。今回の研修テーマは「自傷行為」です。リストカットをはじめとする自傷行為は、若者の1割が経験していると言われ、支援に携わる者にとっては決して珍しくない現象ですが、今なおさまざまな誤解や偏見があり、適切なケアがなされていないことも少なくありません。なぜ自分を傷つけるのでしょうか？今回の研修では、長年このテーマに取り組まれてきた松本俊彦先生をお招きし、支援者として、自傷行為を繰り返す若者を正しく理解し、援助するための方法についてお話いただきます。研修案内を当院ホームページに掲載していますので、関心のある方はお目通しください。

研修名: 自分を傷つけずにはいられない ～自傷行為の理解と援助～

日時: 2019年10月27日(日) 14:00～16:00(受付13:30～) **会場:** 西原町町民交流センター(さわふじ未来ホール)

定員: 300名(※沖縄県内にて、若者の心の支援に携わる機会のある支援者であれば職種は問いません)

申込締切: 2019年10月4日(金) ※事前申込された方のみ入場可能です **参加費:** 無料

認知症医療

認知症は、早めの治療が大切です。治療が早ければ進行を遅らせることができます。認知症になった患者さんが生活していく上で、認知症になったことからくる戸惑いや不安の解消へと繋がります。出来ていたことができなくなる、今まで知っていたことが分からなくなっていく自分と向き合い、自分の能力への不安が強くなります。出来るはずの事が上手く出来ないからイライラするし、虚勢を張ってみたい、出来ない事を隠そうとしてその場を取り繕うような嘘を言ったりします。また、自分が人から頼られ活躍していた時代の自分の役割関係を、今に当ってはめて自尊心を保とうとします。これらは認知症によって出来ない事、わからない事が増えていき、今まであった自分というものがなくなっていくような不安感に対するあがきとも言えます。時には元気づぎるように見える患者さんも、心の中に大きな不安と恐れ、助けを求めたいがどうして良いかわからない焦りがあります。認知症の治療には、患者さんが毎日を安心して暮らせるようにするための生活の工夫、安心して生活できる環境づくり、ケアの工夫、介護者の負担軽減の工夫といったことも行っています。病院を受診することで、認知症になっても、ご家族や友人・地域の人たちに囲まれて、みんなが楽しく暮らしていく事が出来るようにしていく事が認知症治療の役割だと考えています。早期の治療開始は、介護の大変さを軽減するとともに、皆様方のご家庭に大きな安心感をもたらすことができます。受診を迷っている方は、早めの受診をお勧めします。

重症心身障がい医療

9/17(火)～9/20(金)、入院されている利用者、ご家族及び成年後見人の皆様へ個別支援計画の中間報告を行わせて頂きました。ご家族、成年後見人の皆様からのご意見やご相談させて頂いた事を、より良い支援へと繋げられるように取り組みたいと思います。平成29年、厚生労働省障害保健福祉主管課長会議において児者一貫制度の恒久化が表明され、「入所者の年齢や状態に応じた適切な日中活動を提供する」ことが前提条件と示されています。「年齢や状態に応じた適切な日中活動の提供」には生活年齢の配慮、発達年齢、障害の状態像、強度行動障害、感染症、外出支援等、多様なケースに応じて、障害特性、環境要因もふまえた個別性のある療育の提供が重要となります。個別支援計画は利用者のご希望が実現する為の計画です。表現する事が難しい利用者の思いを汲み取る為、多職種及びご家族で検討する事が必要になると共に、ご本人の意思を適切に尊重した支援を目指し取り組んでまいります。

アルコール・薬物依存医療

平成25年5月27日、アルコール依存症の新しい治療薬「レグテクト」が発売となりました。レグテクトは、アルコール依存症の方の強い『飲酒欲求』を直接和らげてくれる作用があります。当院では令和元年8月末現在、外来通院中の患者さん21名、入院中の患者さん80名の方が服用されています。内服している方は「飲酒欲求が軽減した」と話され、再飲酒の抑制につながっています。また、当院の外来での調査では、レグテクト内服を継続している患者さんの方が、治療継続率が高いという結果も出ております。患者さんへは、適宜導入を勧めています。断酒が困難な方は、ぜひ外来を受診し相談して下さい。

包括的地域精神医療

8月の訪問看護利用は749件で、新規申し込みが4件ありました。当院の訪問看護の訪問地域は広域で、北は国頭から本部町、今帰仁、東村など北部地域全域で、中部は浦添市までを訪問範囲としています。利用者が地域で安定した生活が継続して送れるように、ご家族の心配や不安に寄り添い、充実した生活が送れることをお手伝いできればと願っています。9月は敬老の日や秋分の日などハッピーマンデーが続き訪問看護もお休みが重なりました。多年にわたり社会に尽くしてきた老人を敬愛し、長寿を祝う敬老の日の趣旨のもと、地域でも敬老会などの催しが持たれたことでしょう。また、秋分の日、先祖をうやまい、亡くなった人々を偲ぶ日とされています。訪問看護の利用者の方々も高齢の方もいらっしゃいます。先祖を敬い、老人を敬愛する思いを新たにしながら、今も仕事に励みたいと思います。

臨床研究部活動状況 「クロザピン治療の地域連携体制に関する沖縄県の総合病院との連携の調査研究」 副院長 大鶴 卓

本分担研究班はクロザピン（以下 CLZ）地域連携における総合病院（血液内科、救急部、精神科）との精神科病院の連携体制について実態調査と班会議等の議論を踏まえ研究を進めた。CLZ 地域連携における総合病院との連携には 2 つのパターンがあり、CLZ 治療中の患者が無顆粒球症・顆粒球減少等の身体疾患を発症した際に総合病院は受け入れ体制は構築できているが、身体疾患治療後の転院に関して不安を持っていることがわかった。また、CLZ 地域連携体制を構築するためには、2 つの連携（精神科医療機関における連携、精神科と総合病院との連携）、3 つの役割（CLZ 導入を行うことができる基幹型病院、主に CLZ 維持治療を担う補完型病院、副作用に対応する総合病院）の整備が必要であることがわかった。総合病院の不安を解消するためには、CLZ 患者の搬送元病院への患者転院が難しい場合は、CLZ 地域連携において基幹的な役割を持つ精神科病院が、総合病院からいったん患者を受け入れ、薬物療法や身体治療を行った後に搬送元の各精神科病院へ患者を転院する体制を構築する必要があるが、そのあり方は地域ごとの医療体制に合わせた連携体制を構築する必要があることが明らかになった。

平成 29～30 年度厚生労働科学研究 重度かつ慢性的精神障害者に対する包括的支援に関する政策研究 クロザピン使用指針研究 分担研究報告書 研究要旨より抜粋